

平成 25 年 4 月 30 日 00116 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

# 北見武道通信

## ニュースレター【名論卓説】

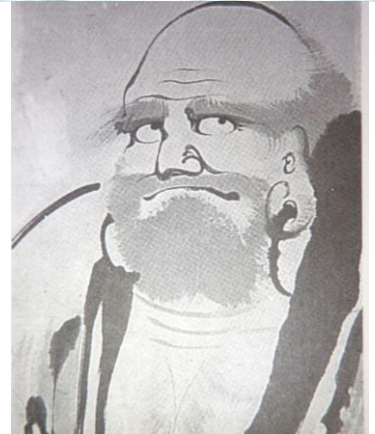
### 少林寺拳法の沿革 「達磨と禅」

文筆：北見市少林寺拳法協会理事長 宮末政則

達磨といえば、起き上がり子坊師として皆知り、また、色々な願い事の縁起仏としてあがめられ親しまれている。達磨という名を聞けば、ただちに七転び八起きとか、不撓不屈などの言葉を誰でも知っていると思います。

達磨は、いうまでもなく中国禅宗の開祖だが、はじめの名前は菩提多羅といひ西天竺香至国の第三王子として生まれた。釈尊と同じクシャトリア、すなわち王侯貴族の出身である。後に仏門に入って般若多羅尊者の弟子となって、名を菩提達磨と改められた。般若多羅の死後、達磨は中国で仏教が誤り伝えられ真実の教法が失われ掛かっていることを知り釈尊の正法を伝えるために、はるばるインドから中国に赴いた。はじめは南朝、梁の武帝に接見し、支持を受けたが後に武帝は達磨を理解するには至らず、梁の国を去った達磨は河南省の崇山少林寺に移り住み座禅行と共に易筋行(拳法)を伝えた。その後廃仏政策や迫害に苦しめられた民衆が護身術として盛んに伝習するようになった。

達磨は釈尊の正法である自己確立のためには、霊肉不二の存在である自己の本体をなければならないとした。そしてその方法として、霊の住家である肉体を鍛錬調御し、金剛の力と勇猛心を与えるために「易筋行」すなわち拳法と座禅とを残したのであった。この拳法の演練によって、少林寺の僧たちは、体力気力とも他山にひいで、後には勇猛剛健になること中国随一となったのである。拳法はまた、うち続く戦国乱世の時代に、寺を守るために重要な役割を努めてきたのである。また、達磨は崇山少林寺の洞窟で面壁 9 年座禅したと伝えられ手足が腐りなくなったという伝説もある。(手足のない達磨さんはここに由来したといわれている)少林寺拳法の開祖宗道臣は、達磨が伝えたインド伝来阿羅漢の拳の秘技と不撓不屈の精神、釈尊の自己確立の教えを基に、拳を主行とした人づくりの新しい道を開創したのです。



左：崇山少林寺の壁画

(修行僧たちは互いにひと組になり真剣にしかも楽しそうに練拳に励んでいる。その姿は決して争う姿でなく相対練拳の姿であり自他共楽の姿を如実に描きだしている正に少林寺拳法の原点にはかならない。)